

秩父今宮神社  
奉賛会だより

(平成二十七年正月号)



年頭のご挨拶



今宮神社 宮司 塩谷 崇之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御篤志を賜りまして誠にありがとうございます。

【羊致清和】(ひつじは天下泰平をもたらず) 中国では古くより羊は「吉祥」をもたらす動物とされてきました。「群」の漢字にも「羊」の字が取り入れられていることからわかるように、羊は群れとなって調和しながら暮らすことから、家族の調和、地域の安泰を表すものとして使われています。

ひつじ歳の年頭にあたり、中町奉賛会の皆様をはじめ、秩父地域のますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

さて、私が宮司を拝命して三期目となりました。昨年平成二十六年度は、大きな前進の年となりました。年初にあたり龍神池周辺の御神域整備事業を御提案申し上げましたところ、多くの方々にご賛同、ご支援を賜り、玉垣の築造、龍神池畔の整備さらには稲荷社の再建と、無事整備事業を完遂することができました。あらためて、篤く御礼を申し上げます。

他方で、残念な出来事もありました。今年二月、秩父地方は未曾有の豪雪に見舞われ、多くの被害をもたらしました。また今年七月には、長年に亘り今宮神社執事長として神社運営を陰ながら支えていた父塩谷善三郎(今宮神社執事長)が齢七十六にして急逝し、還らぬ人となりました。当社にとっては大変残念なことではありますが、しかし、職員一同力を合わせて、この難局を乗り越えてゆく所存であります。

今年もまた、元日の「歳旦祭」につづき、新しき春の到来を喜ぶ「立春祭」、明治十一年「秩父大火」の思い起こし防災の決意とともに火伏の神々に祈りを捧げる「三社祭」、武甲山の龍神さまを里にお迎えして感謝を捧げる「龍神祭」、秩父神社の御田植祭にその龍神さまの御恵をお分けする「水分祭」...と春のお祭りが続きます。六月には、開祖役行者をお祀りする「役尊神祭」(行者祭)、そして水無月晦の「夏越大祓」。秋には、そして当社の主祭神であるイザナギ、イザナミ、スサノヲの三柱の神々に感謝の誠を捧げる「例大祭」へと続きます。皆様方にもぜひご参列いただければ幸甚に存じます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年 元旦

ご神域整備事業完成のご報告

当社では、御神意により平成二十六年春より境内ご神域の整備事業に取り組んで参りましたが、皆さまからの御厚情ならびに御奉賛によりまして昨秋、無事整備工事を終え、龍神池畔に建設された撰社「稲荷社」遷座祭を斎行し、同月二十八日の例祭日を持ちまして無事この度の境内整備事業の完了をご神前に奉告させていただきます。

つきましては、改めまして、ご篤志を頂戴いたしました皆様方にご報告申し上げますとともに、新たに鎮座いたしました「稲荷社」の御参拝、ご奉賛をご案内申し上げます。

一 境内整備事業(龍神池周辺御神域)

龍神池周囲に玉垣を建設して清々しくも深淵なる御神域の佇まいを保持するとともに、参道神橋の塗り替え、玉砂利の敷設、池畔への植樹等を行いました。



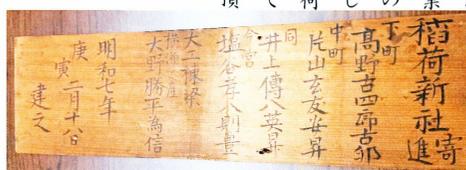
二 今宮神社撰社「稲荷社」の再建

当社では、古くから宮中八神の一座として「御食津神」が祀られておりましたが、江戸時代中期、当時の中町および下町の氏子からの奉賛により境内に「稲荷社」を新築し、京都の伏見稲荷大社より「正一位稲荷大明神」を勧請して「御食津神」と習合させ、今宮神社の境内撰社に祀っております。

昭和三十年代、御神域を児童公園として開放するにあたり、御親神である須佐之男大神とともに仮本殿に合祀しました。

この度、氏子崇敬者の皆さまのご厚志により、境内整備事業の一環として、武甲山伏流水の湧き出づる龍神池の畔に麗き神祠を建設し、「正一位稲荷大明神」の御神霊をお遷ししてお祀りし、皆さまにもお詣り頂くけるように致しました。

(左) 明和七年(一七七〇年)二月十八日、中町および下町の氏子らの寄進により稲荷新社が完成し、正一位稲荷大明神が祀られた記録が残っています。



(左) 稲荷大神の御遷宮にあたり授与されたものと思われる古神札(年代不詳)



龍神池畔に新設された「稻荷社」  
(平成二十六年九月二十七日遷座)



平成二十六年度を振り返って

- ◎一月一日(祝) 歳旦祭
- ◎二月四日(火) 立春祭
- ◎三月二十日(祝) 三社祭



中町会・東町会及び秩父市消防団による火難除け祈願の祭典。1878年の秩父大火は、秩父の市街約4万坪447棟を焼け尽くしました。二度とこのような災禍の起こらないよう、以後130余年にわたり、地元消防団を中心に、撰社に祀られる火伏の神様である秋葉大神・古峯大神・三峯大神に防災を祈願しました。

◎四月四日(金) 龍神祭・水分祭



午前中、龍神木前齋場にて「龍神祭」が盛大に斎行されました。同日午後、秩父神社より神職・伶人・作家老・神部ら御一行が今宮神社に水乞いに参られ、当社齋場にて「水分神事」が執り行われました。秩父神社ご一行は、今宮神社から授与された「水幣」を秩父神社に持ち帰り、境内にて御田植神事が執り行われました。

◎六月三十日(月) 夏越大祓



奉賛会の皆さんにご尽力頂き、無病息災をもたらずとされる立派な「茅の輪」を製作し、「茅の輪神事」を執り行いました。

- ◎九月十四日(日) 武甲山慰霊護摩供
- ◎九月二十七日(土) 稻荷社遷座祭
- ◎九月二十八日(日) 例大祭
- ◎十二月三十一日(水) 年越大祓



今宮神社くいま・むかし

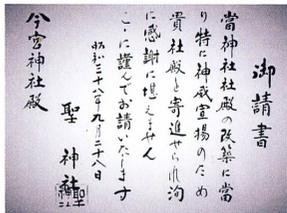
昭和初期の今宮神社の御神域



(右) 現・聖神社社殿  
(左) 聖神社の寄進請書

今宮神社旧社殿

昭和三十三年、境内地を児童公園・児童館として開放するにあたり、黒谷の聖神社に寄贈されました。本殿は一間社流造銅板葺。拝殿は方三間の入母屋造平入銅板葺。宝永六年(一七〇九年)から翌七年にかけて、大宮郷(現秩父市)の工匠である大曾根与兵衛により建立されたもの。



今宮神社奉賛会とは

今宮神社奉賛会は、今宮神社の御神徳を奉賛して神社の諸事業並びに護持運営に協賛し、併せて会員相互の発展・親睦を図ることを目的としております。

現時点で、浅賀克彦会長以下、中町会会員九十二名に御奉賛いただいております。

詳細につきましては世話人におたずね下さい。

未(ひつじ)の歳に寄せて

『羊』は群れで仲良く行動するため、家族の「安泰」「平和」や社会の「調和」をもたらし縁起物とされています。

未歳生まれの人は、穏やかで温かく、優しく正義感が強く、真面目と言われ、また「財テク」の才に長けているとも言われます。

今宮神社では、今年一年の皆様のお幸せを願い、未歳千支御守りをご用意いたしました。



未歳千支御守

今年度の 行事予定

- ◎ 稲荷鳥居ならびに赤幟旗のご奉納受付中です。
- 平成二十七年一月一日 歳旦祭
- 平成二十七年一月五日 神道護摩供始祭
- 平成二十七年二月四日 立春祭
- 平成二十七年三月二十一日 三社祭
- 平成二十七年四月四日 龍神祭・水分祭
- 平成二十七年六月七日 役尊神祭
- 平成二十七年六月三十日 夏越大祓
- 平成二十七年九月二十八日 例大祭
- 平成二十七年十二月三十一日 年越大祓
- 毎週日曜午前十一時〜 神道護摩供
- 各行事につきましては、随時ご案内申し上げますので、お気軽にご参加下さい。

◎六月八日(日) 役尊神祭(行者祭)



水幣授与の儀



授与された水幣を奉じて秩父神社へ戻る作家老と神部



秩父霊場の開祖であり、また今宮坊の開基でもある役小角大神(役行者様)の御聖徳を思い起こしつつお力をいたたくお祭りが、行者さまの御命日にあわせて執り行われました。天台宗善賢山天照院小澤暁省師による護摩奉納が行われました。